

茅ヶ崎寒川 第17回 多職種連携研修会

それぞれの役割を理解して、連携の質を高めよう！
－自分の仕事をアピールしよう－

◇理学療法士

発表者 森元 幸太郎

所属 株式会社アールアンドシー湘南 東日本統括部長



株式会社アールアンドシー湘南

- ・ 訪問リハビリ・看護サービス
モーション
- ・ 地域密着型通所介護(リハビリ特化型)、日常生活総合支援事業
ムーブメント、ムーブメントプロ(要介護のみ)
- ・ 児童発達支援、放課後等デイサービス
ムーブメントプラス
- ・ 訪問介護
メール
- ・ 市町村や他事業所との業務委託
一般介護予防事業地域リハビリテーション活動支援事業



株式会社アールアンドシー湘南

平成24年1月 設立 ※本社 茅ヶ崎市



・職種

理学療法士	31名	作業療法士	8名	言語聴覚士	2名	看護師	14名
社会福祉士	1名	保育士	3名	鍼灸師	1名	介護福祉士	9名
介護職員初任者研修修了者				12名			

在宅における専門職の役割

- ・ 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができることを支援する



- ・ 在宅での生活状況の変化等を身体機能面、動作能力を評価し、暮らしの疎外となる問題の抽出し生活の維持、改善のお手伝いをさせてもらう

在宅における専門職の役割(ケース)

- A様(60代)
- 診断名 : 脳出血後遺症(13年前発症)
- 障害名 : 右上下肢麻痺
- 日常生活動作
 - 起居動作: 自立
 - 移動 : 屋内車いす駆動自立(近位、T杖歩行自立)
屋外車いす介助
- 生活状況: 一戸建てに独居(同敷地内の別棟に夫の住宅あり)
- 社会資源: 介護保険(要介護4)
 - 通所リハビリ、通所介護、訪問介護、福祉用具

在宅における専門職の役割(ケース)

通所介護利用中歩行が以前より不安定

⇒最近、**右足が痛く**て立っているのが**怖い**。

(病院受診するも新たな診断なし)



理学療法士が評価実施



仮説

本人、家族、ケアマネジャー
等と情報共有

脳出血後遺症に伴い、右下肢への荷重不十分で異常感覚出現？



通所だけでは管理不十分ではないか？

疼痛軽減



訪問リハビリ追加

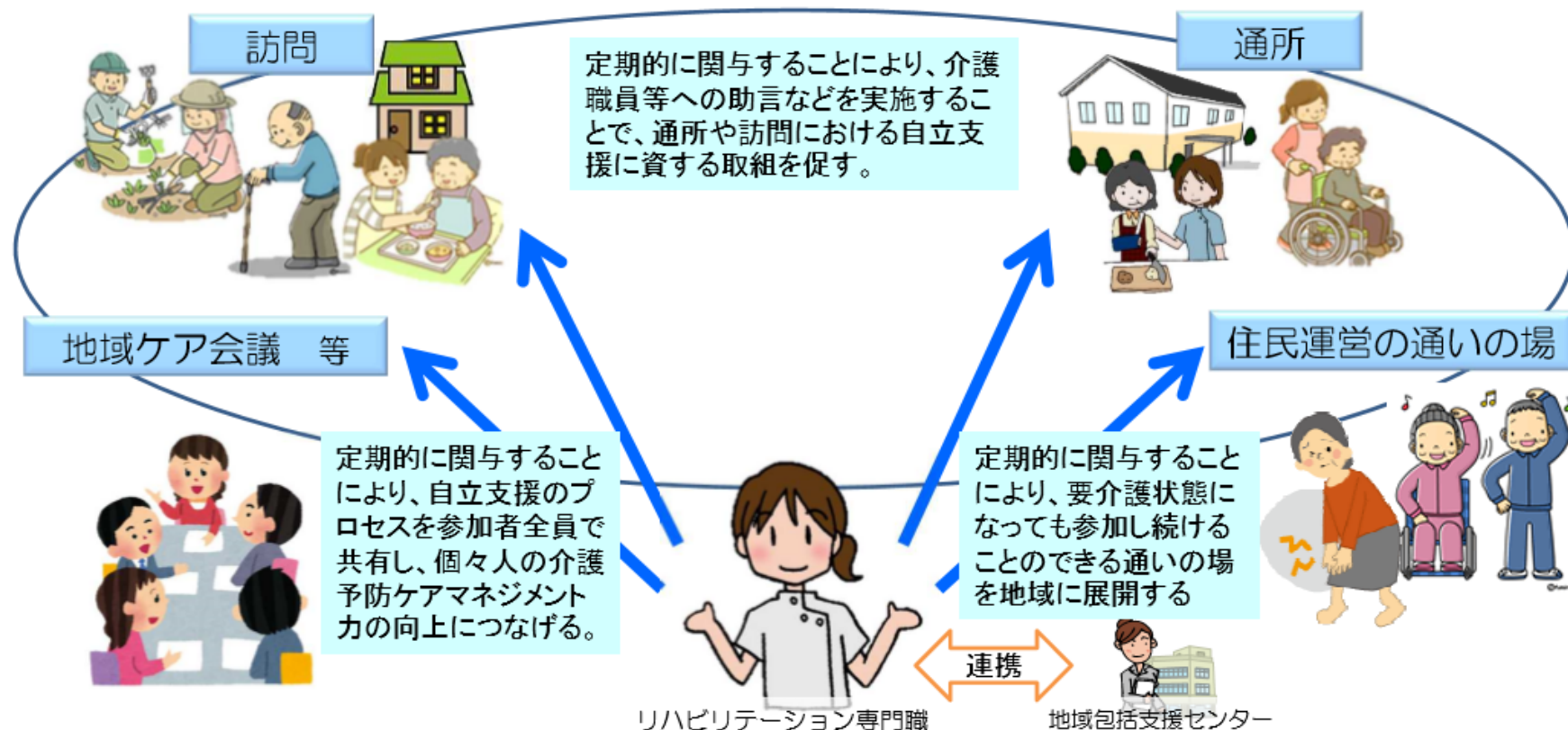
専門職としての在宅への思い

- 在宅に対する思い
関わる方が住み慣れた場所で自分らしく過ごせるための
地域づくりの構築
- 自分が大切にしている事
利用者様のニーズを理解し、自分の意見が押し付けにならない
- 地域連携に関する課題など
社会資源の可視化と共有の周知スピード

地域での理学療法士等の専門職が関わっていくことで、
自立支援の強化が出来る

地域リハビリテーション活動支援事業の概要

○ 地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



一般介護予防事業 地域リハビリテーション活動支援事業

○自宅リハビリテーション

対象：福祉用具(手すりや足版等)を活用したい方、自宅で転倒しがちな方、自宅にあるものを使って介護予防に取り組みたい方等、介護保険の有無に関わらず、
65歳以上の高齢者及びその家族

○サロンリハビリテーション

対象：高齢者サロン等の参加者及び高齢者サロンを実施運営する支援者

サロンリハビリテーション



ご清聴ありがとうございました

